

氏名	大 塚 康 吉
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 285 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和43年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文の提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	同種腎移植の実験的研究
論 文 審 査 委 員	教授 砂 田 輝 武 教授 田 中 早 苗 教授 児 玉 俊 夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

雑犬56頭を用い、自家腎移植ならびに同種腎移植を行ない次の結果を得た。

自家移植は頸部および腸骨窩へ行なった。頸部への移植は尿管の狭窄がおこり易く、全例に逆行性感染がみられた。腸骨窩への移植では10例中7例が1ヵ月以上生存した。

同種移植は全例、両側腎を摘出後、腸骨窩へ行なった。免疫抑制剤を使用しなかったものは7～29日間は生存し、平均生存日数は12, 1日、免疫抑制剤としてイムラン、プレドニンを使用したものは、11～282日間生存し、平均生存日数は41日であった。232日生存犬の死亡前のBUN値は45mg%であった。

同種腎移植例のうち5頭に腎と同じ donor からの皮膚移植を行なった。1ヵ月以内に腎拒絶のため死亡した例では移植皮膚に変化は認められなかったが、282日生存例では210日頃に発生していた移植皮膚が脱落した。

対照実験として両側腎を摘出した犬は5～7日間生存した。イムラン4mg/Kgを連日投与した場合に は白血球減少、赤血球減少、GPT、GOT 値の上昇がみられ、比較的短時日に死亡した。

(昭和43年 6 月 日本外科学会雑誌第69巻 6 号掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は同種腎移植に関し実験的に研究したものであるが、その臨床応用のための要因について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。